

プロ合格の原動力！

今泉健司

# 中飛車勝てる



アマのレジェンドから  
プロ棋士へ！

42歳のルーキーが放つ  
最強中飛車戦術書

左穴熊、相中飛車、  
対一直線穴熊など今泉流中飛車を  
より広く、より詳しく解説

# プロ合格の原動力！今泉の勝てる中飛車 目次

序 章 僕はこうしてプロになつた

（プロ編入試験自戦記）………5

第1章 中飛車対三間飛車……………23

第1節 中飛車左穴熊……………24

第2節 小林流……………58

第2章 中飛車対向かい飛車……………63

第1節 □4三銀型……………64

第2節 □4二銀保留型……………75

第3章 相中飛車……………81

第1節 相中飛車……………82

第2節 先手、左玉……………96

第4章 中飛車対角交換型……………119

第1節 ♠5九飛型……………120

第2節 ♠8八飛型……………138  
第3節 前田流……………159

第5章 中飛車対急戦……………175

第1節 □7三銀型……………176

第2節 □6三銀型……………180

第3節 角道不突急戦……………204

第6章 中飛車対一直線穴熊……………213

第1節 美濃囲い……………214

第2節 相穴熊……………226

コラム① R指定中飛車？……………62

コラム② 今泉さんは双子？……………80

コラム③ 初段になるための勉強方法……………118

コラム④ 四段になるための勉強方法……………62

コラム⑤ 感謝……………237

構成 池田将之……………238

序

章

# 僕はこうしてプロになつた

「プロ編入試験自戦記」

## 【投了図は▲6五同馬まで】



図の▲6五同馬で石井四段の投了。  
プロ編入が決まった。

### ◇編入試験挑戦まで

2014年12月8日、石井健太郎四段戦。

この将棋に勝って、私は念願のプロ入りを決めた。プロ編入試験が制度化されてからの四段編入第一号、長年の夢がかなった瞬間であり、過去の自分との戦いに打ち勝つことができた瞬間でもあった。

序章では「中飛車」とともに戦った私のプロ合格までの道のりを振り返ってみたい。

前著「最強アマ直伝！勝てる将棋、勝てる戦法」が大変好評をいただき喜んでいたのが2014年の4月。

この時点では私のプロ棋士との対戦成績は9勝4敗で、編入試験の条件を満たすまであと1勝に迫っていた。

10勝したら試験に挑戦することは決めていたが、それを人に言うことはしなかった。できたばかりの制度でまだ細かいことが決まっていな

かつたし、自分で育ててきたものが壊れてしまうような気がして嫌だつた。

2014年7月5日に星野四段に勝ち、晴れて編入試験挑戦を表明した。

本当は挑戦するかどうかもう少し考えたかつたが、1ヶ月以内に返事をしなければならなかつたので、すぐに挑戦を表明、試験実施が決まつた。

試験前の気持ちとしてはとにかくいい結果を出したい、そして過去の自分との戦いに決着をつけたいという思いが強かつた。

戦法は中飛車でいくと決めていた。他に何かいい戦法があれば考えるだろうが、それ以上の中飛車のないものであれば迷う必要はない。

中飛車をメイン戦法に据えてから成績も上がり、編入試験までたどり着くことができたのだが、「これでダメなら仕方ない」という言い方はダメ前提なので嫌だが、自分との戦いに後悔だけ

◆第1局 宮本広志四段戦

2014年9月23日、編入試験が始まつた。

最初の相手は宮本広志四段。3手目に▲5八飛（第1図）とされ、私が得意とする中飛車左穴熊にしてきたのには意表を突かれた。

宮本  
なし



◇自分らしい△7四銀

中飛車左穴熊を相手にするのは初めてだつたが、この戦型はもちろん研究していたし、振り飛車党ならどちらを持つても一局。当時有力だと思っていた対策をぶつけた。分かれは互角だつたように思うが第2図の▲8六歩が好手で、以下8筋を押し込まれ苦しくなった。

宮本 桂歩四



印象に残っているのは88手目の△7四銀（第3図）。依然として苦しく、ここで▲7五桂か△8三桂打と単純に攻められていたら敗勢だが、以下△8五香▲7五歩△8七香成で形勢が逆転した。悪いながらも粘りある手で相手のミスを誘う、自分らしい一手だったと思う。

## ◇第2局 星野良生四段戦

この将棋は先手の私が初手  $\blacksquare$  5六歩から  $\blacksquare$  5八飛として中飛車に。対して独創的な将棋で有名な星野四段らしく  $\square$  1四歩～  $\square$  1五歩と端歩を伸ばしてきて、力戦調の将棋となつた。

第4図、 $\blacksquare$  5六歩と合わせたところでは、私にしては珍しくペースを握っている。

■今泉 なし



後手の7三の金は先手の角を押さえ込みたいがための駒だが、角にさばかれてしまつてはひどい駒になつてしまふ。よつて  $\square$  6四金だが、 $\blacksquare$  5五歩  $\square$  同銀  $\blacksquare$  同銀  $\square$  同金  $\blacksquare$  4六銀（第5図）と進み先手の調子が良い。しかしここが将棋の難しいところで、有利になると手が伸びなくなるものだ。ここから追い上げられた。

■今泉 歩

◇自分ならではの3手一組

第6図は既に難しい局面で混戦。しかし逆に言えばそれが自分の土俵でもある。

ここで▲6三成桂は△5五金で金を味良く中央に使われてしまうが、▲7七角としたのが私がよくやる「攻めを遅らせる一手」。

今度△5五金なら▲6三馬と馬でいける。実

▲今泉 角歩一

一二三四五六七八九

【第6図は△5六銀引成まで】



戦は△4四金だが、金を使わせて攻めを遅らせることに成功した。そこで▲4八金がまた私好みの手で相手の厚みに対し厚みで対抗したも

の。この辺りは感覚で指している部分も大きい。実戦は第7図のように進んで成桂がさばけ、▲4八金がもろに生きる展開になつた。以下、△6六成銀▲8六角から勝ち切ることができた。

▲今泉 金歩三

一二三四五六七八九

【第7図は▲5七歩まで】



### ◇第3局 三枚堂達也四段戦

ここまで2連勝と望外の結果。あと1勝すれば合格だ。しかし人間不思議なもので、目指していたものがかないそうになつたらそのまま突き進めばいいのに、心のどこかで「こんなにうまくいっていいのか」とブレークをかける、そして自ら疑惑暗鬼に陥ってしまう。第3局はそ

【第8図は▲5八金右まで】



【第9図は▲1三歩成まで】



ういう自分の弱さが出る結果になってしまった。

私のゴキゲン中飛車に三枚堂四段は▲5八金右（第8図）と超急戦の出だし。しかし私に超急戦を受けるつもりは毛頭なく、三枚堂四段もそれは折り込み済み。私は2筋に飛車を転回し、先手は居飛車穴熊に組む持久戦となつた。第9図で私らしい一手でリードを奪う。

◇ 疑心暗鬼の将棋

じつと □4六馬（第10図）と引いたのが好手。いま盤上で最も重要な駒を飛車のラインから外して、存分に働くようにした。

以下、 ♜2二と □1六香 ♜2一と □3六銀成 ♜6六桂に □8四金となつたところではかなりの手応えを感じた。

■ 三枚堂 銀桂歩



【第11図は □8七銀まで】



さらに進んで第11図。金銀の要塞に私らしさが出てる。□8七銀に對して ♜7四桂 □同金6六馬を読んでおり、そこでどうするかを考えていたのだが、三枚堂四段に ♜7八香という全く読んでいない勝負手を指されて動搖した。疑心暗鬼に陥った私は □7六銀不成 ♜同香の局面で痛恨の悪手を指してしまった。

■ 三枚堂 飛香歩二

## 【第12図は△7八歩まで】



◇自分に負けた  
 △7八歩（第12図）で私の手から勝利が滑り落ちた。ここは相手の香車の筋が通つて怖いが、七歩で必至を掛けておけば、■7三香成（第13図）に△同銀直で詰ます私の勝ちだった。実戦はその怖さに勝てず△7八歩としたため、攻め

## 【第13図は■7三香成まで】



が切れてしまった。  
 自分との戦いだと思つて臨んだ編入試験で自分がかなりこたえた。ただ、私にとつて運が良かつたのはそういうときに立ち直るすべを知つていた（教えてもらつていた）こと。気持ちを切り替えて第4局へ向かうことができた。

## ◇自分に負けた

が切れてしまった。

◇第4局 石井健太郎四段戦

初手からの指し手

☗ 5六歩 □ 3四歩 ☗ 5八飛 □ 3三角

☗ 7六歩 □ 4四歩 ☗ 7七角 □ 3二銀

(第14図) ☗ 5五歩 □ 4三銀 (第15図)

私の先手で早々に中飛車を明示した。第14図の□3二銀が石井四段の工夫。講座にも出てくる

☗ 今泉 なし

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九



右左  
△



右左  
△

る通り、先に□2二飛としてくれれば菅井流で対応可能なのだが、どこに飛車を振るか態度を保留している。

先手は左穴熊にしたいが、第14図で☗6八玉と上がると□8四歩から居飛車にこられて困る。実戦は☗5五歩に□4三銀(第15図)とさらに保留してきたが、次の手が私の研究手だった。

☗ 今泉 なし

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九